

靈元天皇宸影

靈元天皇ハ、第百十一代ノ聖主ニマシマス、在位廿五年、正徳三年御落飾、  
享保十七年崩御アラセラル、寶算七十九、天皇資性英敏、歌文ニ長ゼサセ  
給フ、又久シク廢絶セシ立太子ノ儀ヲ復興シ、大嘗祭ヲ再興シ給ヒシハ、  
實ニ勸旨ニ出ツ、

コノ宸影ハ、皇女榮子内親王ノ御筆ニシテ、京都泉涌寺ノ藏スル所ナリ、



九條兼實畫像

九條兼實ハ、關白忠通ノ第三子ニシテ、九條公爵家ノ始祖ナリ、博覽ニシテ典故ニ通ジ、朝廷ノ疑議アル毎ニ諮詢ニ與ル、源賴朝ノ幕府ヲ開クヤ、ソノ推薦ヲ以テ、議奏公卿ノ首班トナリ、朝政ノ振興ヲ圖ル、後關白ニ補セラレ、太政大臣ニ進ム、建仁二年出家シ、承元元年薨ズ、年五十九、コノ畫像ハ、九條公爵家ノ所藏ニ係リ、古圖ニ據リテ、狩野山樂ノ臨摹セシモノナリト云フ、



夢窓國師畫像

夢窓諱ハ疎石、京都天龍寺ノ開山ニシテ、後醍醐天皇ヲ始メ奉リ、光嚴、光明、崇光三院ノ御歸依深ク、北條高時、足利尊氏、同直義等武家ノ信仰亦篤ク、聲望朝野ヲ傾ケタリ、正平六年九月二十日寂ス、年七十七、

コノ畫像ハ、天龍寺塔頭妙智院ノ所藏ニカ、ル、落款ニ、無等周位筆トアリ、周位ハ、疎石ノ侍僧ニシテ、肖像ヲ畫クニ妙ヲ得タリ、



### 黒田孝高畫像

黒田孝高ハ、官兵衛ト稱シ、入道シテ如水ト號ス、初メ赤松氏ノ被官タリ、後豊臣秀吉ニ從ヒ、常ニ帷幄ニ參シテ畫策スルトコロ多シ、天正十五年豊前國六郡ヲ賜ハリ、中津城ニ居ル、尋デ致仕シ家ヲ子長政ニ讓リシガ、秀吉ソノ才略ヲ惜ミ、猶左右ニ侍セシムルコト元ノ如シ、文祿慶長兩度ノ外征マタソノ顧問タリ、關ヶ原役ノ時孝高ハ九州ニ在リテ石田三成ノ黨ヲ討チ、長政ハ東軍ニ屬シテ殊功アリ、乃チ大封ヲ筑前ニ受ケ、子孫相繼イデ福岡ニ治ス、慶長九年三月卒ス、年五十九、

孝高機略縱横、今張良ノ稱アリ、コノ畫像、眼光炯々人ヲ射、風貌眞ニ迫ル、以テソノ人物ヲ想見スベシ、原圖ハ、黒田家ノ祖先ヲ祀レル福岡市光雲神社ノ所藏ニ係ル、



### 毛利輝元畫像

毛利輝元ハ、元就ノ孫ナリ、元就歿後、兩叔吉川元春、小早川隆景ニ輔ケラレテ、其遺業ヲ繼ゲリ、後豐臣秀吉ニ仕ヘ、征韓ノ役先鋒トナリテ功アリ、從三位權中納言トナリ、五大老ノ一ニ舉ゲラル、關ヶ原役起ルニ及ビ、徳川家康ニ抗セシヲ以テ、防長二州ニ減封セラレ、隱居シテ宗瑞ト號シ、寛永二年四月薨ズ、歳七十三、

コノ畫像ハ、毛利公爵家ノ珍襲ニ係リ、風姿堂々トシテ西州ノ雄鎮タリシヲ想見スヘシ、



### 細川重賢畫像

細川重賢ハ、舊熊本藩主ナリ、延享四年封ヲ襲ギ、天明五年十月卒ス、年六十六、明治四十四年從三位ヲ追贈セラル、

重賢學ヲ好ミ、武ヲ尙ビ、堀勝名等ノ人材ヲ登用シ、或ハ時習館ヲ興シテ文武ヲ勵マシ、或ハ備荒貯蓄ヲ行ヒテ、勤儉ヲ獎ムルナド、國政ノ改善ヲ圖リシカバ、天明ノ飢饉ニ際シ、領内殆ド餓莩アルヲ聞カズ、當時米澤ノ上杉治憲ト共ニ、東西ノ名君ト稱セラル、

コノ畫像ハ、細川侯爵家ノ所藏ニ係ル、重賢ニ信任セラレタリシ竹原玄路ノ畫キシモノニシテ、原本ニハ、天明六年三月十五日大德寺前住秀山宗騏ノ贊アリ、



### 徳川家齊畫像

徳川家齊ハ、第十一代ノ將軍ニシテ、松平定信ヲ舉ゲ銳意治ヲ圖リ所謂寛政ノ治ヲ興セリ、時ニ異國船屢々來リテ邊警ヲ傳ヘタレド、國內升平ノ氣ニ満チテ、文化ハ爛熟ノ極ニ達シ、所謂大御所時代ヲ現出シタリ、將軍職ニ在ルコト前後五十一年、天保八年職ヲ子家慶ニ譲リ、同十二年薨ズ、年六十九、諡シテ文恭院トイフ、家齊資性濶達ニシテ寛裕臣僚悅服ス、コノ圖徳川公爵家(家達君)ノ所藏ニ係ル、ヨクソノ豐泰迫ラザルノ風格ヲ寫セルモノト云フヘシ、



### 杉田玄白畫像

杉田玄白ハ、小濱藩ノ外科醫杉田甫仙ノ子ナリ、名ハ翼、字ハ子鳳、鸕齋ト號ス、玄白ハ通稱ナリ、年甫メテ十七、幕府ノ外科醫西玄哲ノ門ニ入ル、初メ支那ノ醫書ニ依リテ、外科術ヲ研究セシガ、偶、江戸ニ來レル和蘭人ヨリ、和蘭文ノ解剖書ヲ得、其圖ノ精確ニシテ、能ク實驗ニ合ヘルニ感ジ、中津藩ノ醫師前野良澤ト謀リテ、之ヲ翻譯ス、解體新書即チ是ナリ、玄白ハ、實ニ我邦ニ於ケル西洋醫術ノ元祖ニシテ、又洋學開拓者ノ一人ナリト謂フベシ、文化十四年、八十五歳ヲ以テ歿ス、明治四十年、正四位ヲ贈ラル、コノ畫像ハ、門人大槻玄澤ノ舊藏ニ係ル、其ノ剃髮セルハ、當時ノ醫師ノ風習ニ從ヘルナリ、座側ノ書冊ハ、左ナルハ、支那ノ醫書ニシテ、右ナルハ、和蘭文ノ醫書ナラン、



### 應仁亂合戦ノ圖

コノ圖ハ、京都眞如堂縁起ニ載セタル應仁合戦ノ繪ヲ抄出シタルナリ、同縁起ハ、大永四年ニ成リ、畫工ハ、掃部助久國ニテ、詞書ハ、後柏原天皇ノ宸筆及ビ青蓮院尊鎮入道親王ノ御筆等ナリ、サレバ應仁ノ當時ヲ距ルコト、相近クシテ、描出セル東西兩軍激戦ノ狀ハ、其實況ヲ髣髴スベク、殊ニ楯ヲ排シ、幕ヲ繞セル大將ノ陣所ノ如キハ、以テ當時ノ營制ヲ徴スルニ足ラン、



### 朝鮮使節來聘ノ圖

コノ圖ハ、朝鮮使節來朝ノ際、幕府へ登城ノ途中行列ノ狀ヲ描ケル者ナリ、朝鮮ハ豊臣秀吉ノ征伐ノ事アリシヨリ、深ク我國ヲ恨ミシカド、徳川家康其ノ修交ヲ計リ、遂ニ彼ヨリ聘使ヲ送ルニ至レリ、慶長十二年使節始メテ江戸ニ來聘セシヨリ、文化八年其江戸ニ來ルヲ止メ、對馬ニテ接遇スルニ至ルマデ、使節ノ來朝セシコト前後十有一回ニ及ベリ、

コノ圖ノ原本ハ、子爵秋元春朝氏ノ所藏ニ係ル、筆者ノ氏名及ビ來朝ノ年次ヲ詳カニセザルモ、圖中人物ノ風俗、畫風ノ年代等ヨリ考フルニ、蓋シ寛延元年ノ來朝ニシテ、秋元涼朝ガ應接ノ事ニ與カリシ時ノモノナラン、其ノ屋轎ノ裡ニ端坐セル正使ノ盛裝、國書ヲ搭載セル書簡轎ノ華麗、旂旗ヲ掲ゲ刀仗ヲ輝カシ、意氣揚々タル從者ノ態度等、其ノ行列ノ盛觀ヲ想見スルニ足レリ、